

## 「子育ては親育て」

### ～「子育て」にとって大切なことは～②

先月号に引き続き、比治山大学短期学部新宅博明教授の執筆の中の「子育ては親育て」～「子育て」にとって大切なことは～から、今回は「粹付け」について掲載しますので、これからの子育てにお役立てください。

しつけが身につく条件の1つはその子にとって、大好きでかけがえのない「人」がいるかどうかです。子どもは、大好きな人から絶えずもらっている「優しさ」の光の中で楽しく暮らしています。しかし、一度まづいことをしたら、目で叱られることで優しさが「中断」します。この中断が「罰」になるわけです。そして、行いを改めると、「自分で気づいて偉かったね」との言葉で手柄までもらい、優しさの光が再びとまります。この優しさの「再開」が「ほうび」になります。

この優しさの中断と再開が、しつけが身につくポイントです。決して厳しさだけではありません。厳しい場合は、その人の前では良い振る舞いをしますが、怖い人がいないところではしません。人を見て行動するようになるのです。また、子どもは叱られると叱ら

れることに「鈍感」になり、ほめられるとほめられることに「敏感」になります。

やがて、子どもが成長するに従い「粹付け」は「今は何をすべき時か、あなたの考えや行動はすべて見通しているよ」との語りかけに変化し、子ども自身の生き方を高い次元から統制する役目を果たします。

これらの「支え」と「粹付け」の二つの要素がバランスよく子どもに対して働けば、やがて、子どもは「自分で自分をほめ、自分で自分を叱れる」ようになるはずで

す。子どもが周囲を困らせる、自分自身を傷つけるといった行動をした時には、「支え」と「粹付け」の二つの要素がバランスを崩していないかどうかを見直してみてください。または、専門家に相談する事をお勧めします。

